

校長つうしん No. 8



2016.10.6

鈴木 恵一

風をうけて

あらたな風が吹く

DORI祭は **CHANGE** というテーマを掲げ、生徒の皆さんの頑張り、無事、成功裏せいこうりに終わることができました。表舞台、裏舞台ほんそうで奔走した実行委員の皆さん、メディア局の皆さんにも感謝しています。

以前、集会で **CHANGE CHALLENGE CHANGE** について話しました。

校長通信のテーマ“風をうけて”の意味は第1号で書きましたが、人生には順風じゆんぷうだけではなく逆風ぎやくぷうも吹くことだってあるから、帆船はんせんやヨットのようにどんな方向からの風でも味方につける発想が必要だよ、という内容でした。

それを人生に置き換えても同じ。いい風が吹く時だけがチャンスではなく、心の持ちようで逆風だって大きなチャンスになるということです。知識と知恵が身につけば、自分で風を起こすことだってできます。チャンスを得たら、挑戦し、そこから自分を変えていくことができたなら、どんなに素敵でしょう。

心が変われば態度が変わり、態度が変われば行動が変わる

行動が変われば習慣が変わり、習慣が変われば人格が変わる

人格が変われば運命が変わり、運命が変われば人生が変わる

秋季入学の新しい仲間を迎えます。心を新たにして後期を迎えましょう。



ポートランドからの手紙



ポートランドのグラント高校から札幌市立高校に研修で来たシドニー・ジョーンズさんから、校長宛あてに日本語で手紙をいただいたので、以下にその文を紹介します。

お元気でいらっしゃいますか。札幌からポートランドに戻ってきて、今忙しくなっています。アルバイトをしたり、遊んだりして、これから高校2年生になります。私たちが札幌で過ごした間、お手伝いをしてくれて本当にありがとうございました。

大通高校の授業を見たり、日本の生徒たちの日常生活を見るのは、とても楽しかったです。(写真左がシドニーさん) 次ページへ

私を受け入れてくれて、日本の生徒たちと会ったり、日本の文化を見たりできて、とても良い経験になりました。学校は私が滞在する時間、楽しくなるよう助けてくれました。これから日本語をいっしょけんめい勉強して、また札幌に行きたいです。

お世話になりありがとうございました。また会う日を楽しみにしています。
シドニー・ジョーンズより



折り鶴が添えられた便せん

アイデンティティって、なに？

大通高校は開校以来、「いろいろな生徒がいて当たり前」「いろいろな国の人がいて当たり前」という多文化共生、異文化理解の考えのもと、一貫して国際交流を大切にしてきました。多種多様な国籍や文化的背景を持つ人々との交わりには深い学びがあります。

アイデンティティ【identity】という言葉があります。よく「自己同一性」と訳されますが、意味がよくわからず、という言葉の代表かもしれません。昔は、精神医学や発達心理学で用いられることが多い概念でした。国際化の進展に伴い現在ではふつうに用いられるようになりました。

たとえば、私たちは、親や国籍、母語など、自らは選びようのない状態で生まれてきます。一方、成長の過程で、他人から、「こう見られたい」「ああなりたい」という思いなど、自らの意志で変えられる自律的な言動や自我の自覚めが起きます。さまざまな壁にぶつかりながらも、それをどう乗り越えるかという過程がアイデンティティの形成であり、「わたしは一体、何者？」と自問自答を繰り返しながら、「自分らしさ」「ほんとうの私」というアイデンティティを確立していきます。

大通高校には、海外からやってきて入学する生徒が毎年一定数います。初めて来日した人は、多くのことに疑問を感じ、時には馴染めないという状況に陥ってしまうことがあります。お互いに受容し合うことも大切です、母国で培ったアイデンティティを大切にすることも必要です。

在日外国人のなかには、先入観で見られることに苦しんでいる人もいます。私たちは、外国に対してもっている固定化したイメージで接することがあります。国民性、文化・風習、生活習慣(衣食住)などについて理解することは大切ですが、いつまでもそのイメージで見る(この人は〇〇人である)ということが日本における多文化共生社会の発展を遅らせている要因だという指摘もあります。十分な日本語能力を獲得し、日本社会のルールや地方独特の慣習に馴染んでいる人はたくさんいます。それにも関わらず、いつまでたっても「あの人は外国人(〇〇人と日本人のハーフ)」といった“異邦人”扱いをし、「外国の文化(特異性)を私たち日本人に披露して見せる」と要求される割合は日本が突出して高いそうです。

「あなたは自分のアイデンティティをどう考えていますか」という質問に対して、たとえば中国から来日した人は、すでに二重文化を生き抜いているから答えに窮することもあるそうです。「中国人です」「日本人です」と答える場合もあれば、「国際人です」と答える人もいます。第三のアイデンティティを確立しているということです。私たちが想像する以上に苦しんでいる場合もあれば、思い切り突き抜けてグローバルな人になっていたりと、さまざまです。あなたも、渡日生徒といろんな話をしてみてください。いろんなアイデンティティに出会うことでしょう。